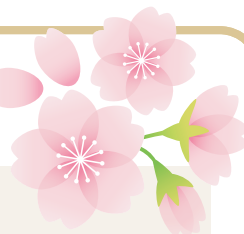


東日本大震災被災地研修を 実施しました

2023年11月3日～5日



発災直後の避難者は約47万人、仮設住宅などの入居は最大で約12万4000戸にも及びましたが、2021年3月をもって応急仮設住宅（プレハブ住宅）は全ての団地で解体完了となり、応急仮設住宅（民間賃貸住宅）についても福島県内被災者の受け入れのみとなっています。

住宅・交通インフラの整備がすすむ一方、福島県内では東京電力福島第1原子力発電所事故により未だ帰宅困難区域があること、廃炉作業において核燃料を冷やすために発生した「処理水」の海洋放出の問題など、依然としてさまざまな問題が残っています。

現在の被災地の現状を直接見て、現地の人々と交流することで、生協が果たす役割・存在意義について学び・考える機会とすることを目的に、職員と2024年入協予定の内定者合わせて11人が参加し、東日本大震災被災地研修を実施しました。



◆桜ライン311とは…

「陸前高田にまた津波が押し寄せたとき、自分・自分の大切な人を守れるように」と、岩手・陸前高田市のNPO法人が続けている津波の到達地点に桜を植樹する活動です。市内の津波到達ライン約170kmに1万7,000本を10メートル間隔で植えていく計画で、東日本大震災の記憶を後世に伝え残します。「自然災害によって人命が失われる悲しみを2度と繰り返さない未来をめざして」という趣旨に賛同し、よどがわ市民生協も2015年以降、このプロジェクトに参加しています（コロナ禍中を除く）。

【研修内容】

1日目 岩手県陸前高田市内 震災遺構訪問

マルゴト陸前高田・パークガイド案内の人と気仙中学校、奇跡の一本松、震災祈念公園などを巡り、防災教育や復興のあゆみについて学びました。



2日目

大船渡津波伝承会で語り部からお話を聞きました。「地震だ！津波だ！さぁ逃げろ！」の言葉を教わり、自分や大切な人の命を守るために必要な行動・意識を学びました。その後、『桜ライン311』植樹会に参加しました。

3日目 陸前高田市津波避難訓練への参加、カキ漁船体験、わかめの芯抜き体験

避難訓練は、陸前高田市主催で実際の防災無線を用いた訓練でした。高台まで約20分かけて地域の人と共に歩きました。避難まで体力がいる（特に高齢者・子どもには負担が大きい）ことから、普段から災害に備え、迅速な判断・移動ができるようにしておくことが大切だと学びました。体験学習では、特産物の特長を学びながら、地域の人たちと交流しました。



2024年度東北支援募金ご協力をお願い

この募金は、「福島復興ステーション(福島)」「遠野山・里・くらしネットワーク(岩手)」に届けられ、福島県では原発事故からの復興、岩手県では復興公営住宅のコミュニティづくりなどの地域交流の取り組みに使用されます。「13年経っても、私たちは忘れない」という想いととも、協力の力で支えていきましょう。

期 間 3月2回～4月2回

募金方法 注文書の募金カンパ欄「1417」に個数(100円単位)を記入してください。またインターネット注文「eフレンズ」でも募金できます。

※この募金は、所得税の寄付金控除の対象にはなりません。

ご協力よろしくお願いたします

1月2回～3月1回実施

令和6年、能登半島地震
災害支援募金へ
ご協力いただき
ありがとうございました

総額については、
次号機関紙よど
がわ4月号にて
ご報告いたします。

